



今中氏



津田氏



山田氏

子どもたちの甲状腺被ばくの問題

たくさんあった不思議なことでもう一つ強調したいのは、子どもたちの甲状腺被ばくの測定が、まったくとっていいほどなされなかったことです。原子力をやっている者にとって、事故時に甲状腺被ばくのサーベイをする、必要ならヨウ素剤を配布して子どもたちに飲ませる、というのは常識です。しかし結局、それがほとんど機能しませんでした。

3月23日ごろに SPEEDI のデータが公開されて、あわてて1000人ほど測ったということです。それはちょうどわれわれが飯館村に調査に入っていたときです。私たちの測定で、野外の空間線量率が5~7 $\mu\text{Sv/h}$ 、村役場の中で0.5 $\mu\text{Sv/h}$ くらい、コンクリートで10分の1に遮蔽されているな、という値でした。1080人を測った結果は後に原子力安全委員会からだされました(原子力安全委員会「小児甲状腺被ばく調査結果に対する評価について」2011年9月9日)。その資料によると、飯館村を含む複数地域の子どものスクリーニングをしていますが、甲状腺のあたりにサーベイメータをあてて、どれくらい数値が増えるかを見えています。0($\mu\text{Sv/h}$)が55%で、0.01が26%、0.04以下をまとめると99%だったという報告で、吹き出してしまいました。測られた場所が、ちょうど同じ時期に私たちもいた、飯館村の役場の中だったのです。バックグラウンドが0.5あるのに、どうやって0.01を測るのかと驚きました。

その測定では、村議会の議長席の後ろでバック

グラウンドの低いところを探して測ったというのですが、生データを見せてほしいところです。あるところでそう話したら、川俣町での甲状腺スクリーニングに参加した先生からメールもらいました。川俣町は飯館村とは、汚染レベルにかなりの違いがあります。飯館村に比べれば10分の1で、スクリーニング場所のバックグラウンドは0.07だったそうです。その値なら、じっとして測れば0.02くらいまでなら何とか測れるかなという気がします。

こんな様子では、ロシアやウクライナに行けば笑われてしまいます。彼らも出遅れたけれど、大人と子どもをあわせておよそ40万人の甲状腺を測ったといっていますから。そのデータをもとに、後で線量再構築をしたのです。

線量を再構築する

いま、私も含めて線量評価の立場から困っているのは、ヨウ素の被ばくのデータが少ないことです。そのために内部被ばくの評価はむずかしい。

いま、飯館村の外部被ばく調査をやっています。私たちは2011年の3月28、29日に飯館村のあちこちで空間線量を測り、土壌サンプルを5カ所で採りました。その段階の汚染測定値から、大量の放射能沈着がおきた3月15日当時の汚染レベルを推測できます。

事故後、米国エネルギー省国家核安全保障局(NNSA)のグループ三十数名が3月16日に来日し、ヘリや飛行機で空中から放射線を測定して、その